

# 数 専 会 だ よ り

発行人 東京女子大学同窓会数専会会長 多羅尾千恵  
 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-23-11  
 Tel. 03-3395-4448 Fax. 03-3395-0084  
<http://www.geocities.jp/twcumath/index.html>

## 【総会報告】

日時 平成23年5月21日(土)  
 於 72年館1階ラウンジ  
 次第

### 1部 総会議事

1. 会長挨拶
2. 各部活動報告
3. 2010年度 決算報告
4. 会計監査報告
5. 2011年度 予算案
6. 夏季研修会について
7. 研究部講座報告
8. 常任幹事交代について
9. 同窓会より

### 2部 弦楽アンサンブル演奏

前会長の飯山良子氏(S41)と有志の方々による弦楽アンサンブルの演奏会

#### 1部 総会議事

2. 各部活動報告 (6ページ参照)
3. 決算報告 (6ページ参照)
4. 会計監査報告 (6ページ参照)
5. 予算案 (6ページ参照)
6. 夏季研修会について

東京女子大学72年館1階ラウンジにて開催されました(2ページ参照)。

#### 7. 研究部講座報告

各講座の代表者より講座の内容、会費等が紹介されました。

現在の研究部講座は、7ページ参照。

#### 8. 常任幹事交代について

次の◎印の幹事が新しく推薦され、総会で選出、承認されました。

会長、副会長、常任幹事は次のとおり。

会長	多羅尾千恵(S43)
副会長	桜井 典代(S43)
	小畑 葉子(S44)
庶務	武田 紀子(S45)
	◎古館 康子(S44)
厚生	鍋田 茂子(S54)
研究	大井美智子(S49)
	廣瀬加代子(S49)
広報	中陵きよみ(S45)
	渡辺 信子(S50)
会計	松本 友子(S48)
	青柳 陽子(S51)
書記	岩崎えり子(S53)
HP担当	鍋田 茂子(S54)
会計監査	吉益美恵子(S42)
	大島 治美(S52)

なお、次の方が退任されました。  
 長い間、数専会のためにご尽力下さりありがとうございました。  
 会計 茶園 幸子(S44)

#### 9. 同窓会より

平素パソコン講師の派遣をはじめ格別の御協力を賜り厚く御礼申し上げます。  
 ホットニュース:72年館の耐震診断をしました。  
 皆様からお寄せいただきました義捐金の一部を、6月支部長会のおりに4被災支部へ20万円ずつ手交致しました。10月29日に母校創立100周年のため原島博先生による顔学講演会を開催、ご参集下さい。

## 2部 弦楽アンサンブル演奏



### プログラム

- \*アイネ・クライネ・ナハト・ムジク モーツァルト作曲
- \*私を泣かせてください ヘンデル作曲
- \*おもちゃのシンフォニー モーツァルト作曲
- \*川の流れるように 見岳章作曲  
松原幸弘編曲
- \*ハレルヤ「メサイヤ」より ヘンデル作曲
- \*夏は来ぬ(歌付) 佐々木信綱作曲  
古山作之助作詞



### アンサンブル・コアプロフィール

二十代から六十代の女性九名男性四名のメンバーで2008年に老人施設訪問演奏を目的に作られたグループ。  
 この日ファーストバイオリン5名、セカンドバイオリン4名、ビオラ3名、チェロ2名の方が、演奏に参加して下さいました。



アンサンブルコアの方々

## 【ごあいさつ】

会長 多羅尾千恵(S43)

東日本大震災により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。皆様の安全と、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

春の叙勲で、東京女子大学名誉教授高村多賀子先生(S26)が瑞宝中綬章を受賞されました。数専会の誇りです。「夏季研修会」の折に、色紙に、寄せ書きをし、お祝いいたしました。

「数専会」は学びの場であり、親睦の場でもあります。幅広い年代の方々が、集まっての「数専会」の発展の為に、日々努力を重ねて頑張っております。

11月19日(土)「秋の講演会」もどうぞお誘いあわせの上、お出かけ下さいませ。今後とも、皆様の「数専会」をよろしく願い申し上げます。

## 【秋の講演会のご案内】

日時 平成23年11月19日(土) 午後1時半～3時半

場所 72年館1階ラウンジ

講師 高林厚子氏(S36)

演題 『キューブが 変身 ドデカヘドロン』

立方体(7cm角)を展開してくると裏返すと正十二面体になるものを指先と頭をちょこっと使って作ります。パズルにも、プレゼントボックスにもなります。

会費 1000円

お申し込み・お問い合わせ

Tel/Fax ※※※※※※※※※※※※※※※※

E-mail ※※※※※※※※※※※※※※※※

櫻井典代

準備の都合上、必ずご連絡ください。

【夏季研修会】

日時 平成23年7月2日(土)  
 於 東京女子大学72年館1階ラウンジ  
 \*講演要旨(3ページ)  
 \*夏季研修会の感想を下記に掲載



講師紹介

◇石井信夫氏  
 東京女子大学現代教養学部数理科学科情報理学専攻教授。東京大学大学院農学系研究科修了、農学博士。(財)自然環境研究センターを経て2004年から現職。専門は哺乳類の生態と保全。著書に「日本の哺乳類・改訂2版」(共著、東海大学出版会、2008年)、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 1、哺乳類」(環境省編、分担執筆、自然環境研究センター、2002年)など。

プログラム

◇11時半～13時  
 昼食・懇親会

◇13時半～15時半  
 「日本の外来動物問題」

日本にはどのような外来動物がいて、どのような問題を引き起こしているのか、そしてどのような対策がとられているのか、特にアライグマとマンゲースに重点を置いて解説します。

東京女子大学  
 数理科学科教授  
 石井信夫氏

【夏季研修会に参加して】  
 山本静枝 (S23)  
 日本の外来動物問題

①外来種とは、もともと自然分布していない地域・水域に、主として人為によって運ばれた生物種である。中には野外に定着して自然繁殖し、在来種や生態系に大きな影響を及ぼす種もあるため、国際自然保護連合が2000年に設立された。

②移入の起こり方は、農林水産物、毛皮獣、ペットや緑化植物、有害生物の天敵などとして積極的に導入したものと、種子、土砂など移動する物や人に混入して入る場合がある。

フィリピン、イギリス、アイルランド、日本などで、鳥は外来種のために16世紀以降100種以上が絶滅し、哺乳類は捕獲も原因だが、それでも半分以上は外来動物の影響である。日本は明治以前は鎖国により外来生物の影響は殆どなかったが、その後は多くの問題が起きている。

その一は生物多様性保全上の問題で

- (1) 競合 朝鮮鼬が日本鼬を山奥に追いやり、住む。
- (2) 捕食・採食 大きな猫が天然記念物の奄美黒兔を捕らえる。
- (3) 交雑 下北・紀伊半島に住む尻尾が短い(10cm以下)日本猿と尻尾の長い台湾猿
- (4) 病気 白血病、FIVが山猫に感染
- (5) 生息地改変 植物を食べる動物

その二は社会経済上の問題で、農林水産業の被害、病気感染やカミツキ亀に噛まれる等の健康被害などがあり、1999年1年間の世界全体の損失は33兆ドルであった。

外来種対策としては

A 既に定着したものの被害駆除として

- (1) 物理的 捕獲、射殺、抜取り

- (2) 生物的 天敵の導入、不妊化があるが、これは現在昆虫にのみ技術が確立している。
- (3) 化学的 毒餌、除草剤などあるが、どれも手間と金がかかるので

B 導入の未然防止即ち移動制限(輸出入・国内移動の規則)、利用制限(飼育・栽培の規制)が必要となる。

そこで特定外来生物による被害の防止のため、2004年外来生物法が制定され、2005年6月法律の施行・規則が開始された。現在特定外来生物として哺乳類21、鳥類4、爬虫両生類24、魚類13、昆虫8その他の無脊椎動物15、植物12種類が指定されている。

実例として、洗熊については1才で大人になり、春に平均3~4頭の子を産む。

- 1962年 犬山市で野性化
- 1977年 アニメ・アライグマのラスカルが放映され人気に
- 1985年 ペット販売のピーク
- 1994年 狩猟獣に指定
- 2005年 特定外来生物指定 約15000頭 被害額3億円  
 東京山椒魚、日本赤蛙、赤手蟹の絶滅の危惧がある。

もう一つの例として、ハブ駆除のため1979年導入されたジャワマンゲースも農作物や鳥への害が多く、駆除に力を入れ、分布域は縮小傾向にある。先生が数多く解剖なさった結果、胃の内容物にハブがあったのは1匹もなかったくらい、危険を伴うハブではなく安全なものを食べていたことが分かった。

なお、洗熊等の駆除を神奈川県が懸命に取り組んだ結果、東京都に移動していることが分かった。先生が学校の近くでかなり大きい白鼻心を見つけられ、現在学校の冷凍庫に保存してあり、お時間を見つけて解剖、標本をお作りになるとのことです。

日本の外来動物問題

(石井信夫先生ご寄稿による夏季研修会講演要旨)

外来種とは、もともと自然分布していない地域や水域に、おもに人為によって運ばれた生物種のことである。なかでも在来種や生態系に及ぼす影響のとくに大きな種を侵略的外来種と呼ぶ。

世界的にみて外来生物は、生息地の破壊について、過剰利用とともに、多くの野生生物の絶滅のおそれを高めている主な要因の一つである。とくに島嶼では、過去に多くの在来種の絶滅原因となっており、日本のように固有種が多い島国では深刻な問題となる。

外来生物がもたらす生物多様性保全上の影響には競合、捕食・採食、交雑、病気などがあり、社会経済的な問題としては農林水産業被害、健康被害などがある。すでに定着してしまった外来種については駆除などの対策が行われるが、経済的・人的コストがきわめて大きくなるので、移動制限、利用規制による移入・定着の未然防止が重要である。

外来生物問題に関わる日本の国内法としては、2004年に制定された外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）があり、特定外来生物の指定（2011年現在 97 種類）と、それらの飼養・栽培・輸入等の規制、野外への放逐等の禁止などが定められている。

日本にはすでに多くの外来動物が定着し、さまざまな問題を引き起こしている。今回は、私が直接関わっている、神奈川県のアライグマと鹿児島県奄美大島のジャワマングースの事例を紹介した。

日本におけるアライグマの野生化は 1960 年代から確認されているが、問題が全国的に拡大したのは 1990 年頃からで、最近では年間 1 万頭以上が捕獲されているものの、対策は後手に回り、農作物被害金額も捕獲数も増加の一途をたどっている。神奈川県では 1990 年代から駆除が始まり、2006 年度には外来生物法に基づく防除計画が策定され、年間 1 千頭以上が捕獲されている。しかし個体数増加、分布拡大は抑えられていないのが実状である。

奄美大島のジャワマングースについては、アマミノクロウサギをはじめとする固有希少種が捕食されて絶滅することを防止するために、2000 年度から環境省による防除事業が開始され、2010 年度までに 2 万頭以上が捕獲されている。その結果、個体数は大きく減少し、生息域も縮小傾向にあり、希少種の増加傾向もみられる。しかし、島からの根絶を実現するためには課題が多い。

外来種については、種の多様性が増すので良いことではないのかという意見があるが、在来生物相の歴史・地域性の重要性、長期的には在来種の減少・絶滅を招くことなど生態学的影響の大きさについての認識不足である。また、外来哺乳類の場合には、殺処分への忌避感から捕獲に反対する声もよく聞かれるが、こうした意見は対策を遅らせることで、個体数増加、そして農林水産業被害、生活被害といった直接的被害の拡大を招き、現実にはより多くの個体が殺処分されるという結果をもたらすことがある。外来生物なしに人間生活は成り立たないこと、外来生物問題は人間の側に責任があることを自覚しつつ、目標を明確に定め、現実的で有効な具体策を見極めることが重要である。

【数 専 会 の あ ゆ み】

\*数専会歴代会長

第1代 故豊泉しげ氏	第5代 溝口雪恵氏	第9代 矢矧かつ子氏
第2代 山下タミ氏	第6代 故清水千代氏	第10代 高橋美保子氏
第3代 故豊泉しげ氏	第7代 寺田陽子氏	第11代 飯山良子氏
第4代 故中屋澄子氏	第8代 山本静枝氏	



第11代会長 飯山良子(S41)

パソコン講座

1982年、38歳の時生まれ育った地に引っ越ししました。その頃数専会の重鎮だった寺田陽子姉がお近くにお住まいで、ご挨拶に行ったら、「数専会でパソコンの講師をしない？」と誘われお引き受けすることにしました。一台しかないパソコンを使ってベシック言語でプログラムを作成し、今では当たり前前の動画をコツコツと完成させ喜んでいたのですが、途中からワード・エクセル・パワーポイント等のソフトを使いこなすことがパソコンの主流になりました。その後同窓会でもパソコン講座を開講することになり、親友の戸塚三重子さんと二人三脚で楽しんできましたが、25年の区切りで私は引退しました。

追分寮

2005年大学が所有する追分寮が、老朽化、アスベスト問題などで、閉鎖されるというのを聞きました。数専会ではその昔、夏の勉強会を家族連れで追分寮にて開催していたそうです。壊される前に是非夏季研修会を追分寮でという先輩方のご希望がありました。根岸愛子先生、杉山真澄先生に講師をお願いして、充実した2日間を過ごすことができました。今は取り壊され更地になっている追分寮がいつの日か再建されることを切に願っております。

秋の研修会

数専会には先輩方の浄財が基金として保管されています。その基金を何か会員の皆様に有効に使うことができないかと、幹事会で検討した結果、秋に大学の先生を講師として研修会を開くことを計画しました。



「東京女子大学で得たもの」 堀すみ(S14)

東京女子高等師範学校付属高等女学校(1930年4~8月)  
愛知第一高等女学校(1930年9月~1935年3月)  
東京女子大学数学専攻部(1935年4月~1939年3月)

戦後、1951年から前橋の私立の明和高等学校で数学の非常勤講師として教壇に立ち、1976年まで25年間勤めました。1年契約を更新して教えていましたから、定年になったわけではなく、そろそろかと思って辞めたのです。

60代で始めた水彩画は90歳を過ぎた今も続けているし、80代で始めた短歌も毎月投詠しています。語学の勉強も好きでいろいろと学んできました。最近目は悪くなってもたもたしていますが、勉強は続けています。何事にも興味を失わず、あちこち首をつっこんで、脳のあらゆる分野を刺激しているお陰かボケてはいないようです。88歳でエスペラントの通信教育講座に挑戦し初級を修了しました。

病気もしなかったわけではありません。退職後、クモ膜下出血で倒れ、頭部の手術を受けましたが、後遺症なく回復。また85歳で大腸癌となり、開腹手術をしましたが、これも後遺症なく回復しました。当時は夫を介護している最中で、退院後3日目には、夫の世話をしながら家事をこなす主婦に戻りました。その夫も見送りました、今は一日一日を感謝し大切に生きています。

結果としては大勢の会員が参加してくださり、又会場を大学の教室を無料で貸していただいたりしたので、基金を使うと言う目的は果たせませんでした。

秋山仁先生講演

中学高校時代の親友のご主人様が秋山先生のご親類だったので、ご無理を申し上げて破格のお礼で来ていただくことができました。先生の初恋の方が東京女子大の学生だったことや、若いころ大学の近くにお住まいだったこともご承諾の大きな要素だったようです。色々な小道具をご持参くださり現役の学生たちも多数参加してくれて盛会の内に終わったのは嬉しかったです。

同窓会

2011年6月18日の同窓会総会で副会長に任命されました。これからの3年間は数専会での経験を活かしながら全同窓生の為に力を注ぎます。他学科の理事たちも素晴らしい方ばかりで、東京女子大学で培われた犠牲と奉仕の精神が感じられます。真田学長は一年先輩ですが、学生が、「東京女子大で学べて良かった」と思っ卒業できるよう心血を注がれているお姿には感服いたします。6月末に女子力!東京女子大 by AERA が発売されましたが大変好評で、反響も大きいようです。

2004年から4年間会長をさせていただき、年代を超えた幹事の方たちとの交流で多くのことを学びました。心から感謝しています。数専会がこれからも、会員にとって心の拠りどころとなりますよう願っております。

**同窓会群馬支部の活動:**「女子大を止めなかったお陰で今の私がある」と前述しましたが、そこには同窓生の交流があります。戦後も、夫は引き続き群馬師範学校(後に群馬大学)に勤めて、一家は前橋に暮らしていました。そんな大変な時期に、どこで私のことを知ったのか、女子大の国専卒の方が訪ねていらっしゃいました。それから同窓生の輪が広がって、小さな旅館を営んでいた同窓生のところで、初めて会合を開きました。そのときの記念写真には、当時幼稚園児だった私の2人の子どもも写っています。それから東京女子大学同窓会群馬支部となり、毎年1回必ず支部会を開いていますし、何かあると情報交換もし、助け合い支えあって交流しています。私も支部長をしていた時代があります。在学はたった4年間でしたが、戦後より今日に至るまで、私の人生の一隅には常に東京女子大学の存在があります。

**Something:** 安井先生のこのお言葉はもちろん忘れていません。Something = something です。私にとって something はいつもあきらめない、常に挑戦し続ける、前向きに生きる力です。私に勇気を与えてくださる力の源だと思っています。

(2011年5月ご逝去されました。数専会の為にいろいろとご尽力くださり有難うございました。ご冥福をお祈りいたします。)

## 「国や企業の垣根を超えた研究開発」

杉田由美子 (S 5 5)

私は、東京女子大卒業後、日立製作所の研究所に入り、ずっとコンピュータソフトウェアの研究開発を行っています。企業はお客様に製品を買っていただいて利益を出しており、買っていただくためには他の会社よりも優れた製品、使いやすい製品を生み出さなくてはなりません。そのため、特に製品に関わる技術研究に関しては、他社との共同研究や技術者交流はほとんどありません。私も10年ほど前まではその状況の中で研究開発を行っていました。しかし、「Linux (リナックス)」の仕事を担当してから状況が一変しました。コアコンピタンス技術の研究は従来どおりのスタイルですが、基盤である Linux は世界中の技術者と垣根なく議論・開発し、成果を共有しています。この国や企業の垣根を超えた、ちょっと変わった研究開発について、ご紹介したいと思います。

私が入社した当初は、コンピュータといえば大型のメインフレームであり、一般の人の目に触れることのない存在でした。それが、小型化、高速化、軽量化、省電力など技術が進化し、現在では、電気・交通・銀行・証券取引所などのインフラや基幹業務処理から、TV・携帯電話、スマートフォンなど個人で使う機器制御に至るまで、社会のあらゆるところにコンピュータは使われています。この進化の中でも革新的と言えるものがオープンソース・ソフトウェア (OSS) の登場であり、その代表的なものが Linux です。

皆さんは「Linux」をご存知でしょうか？ Linux はコンピュータの動作を制御する OS (オペレーティングシステム) のひとつです。Windows と同じ、もしくは携帯の Android のベースとなっている技術、と言えは身近に感じてもらえるでしょうか。Linux が誕生したのは 1991 年、一人の大学生が開発してソースコードを公開し、メーリングリストを使って開発を呼びかけたのが始まりです。各企業の中だけで開発が行われていたり、他社との共同開発に NDA (情報を外部に漏洩しないという契約) が不可欠な時代に、何物にも縛られず、インターネットを使って自由な開発を始めたのですから、これは画期的なことです。ちょうど、インターネットや PC が急成長した時代でもあり、有志が続々と参加して、開発コミュニティが形成されました。このコミュニティによる開発手法はバザール方式と呼ばれ、参加者を限定しない、参加者の独自性を尊重する、階層的な組織ではなく個人が中心、ルールや命令系統が少ないという特徴があり、「ソースコードを公開して、誰でも自由に無償で利用・開発・活用・頒布することを認めた、新しい基本ソフトウェア開発モデル」を採用しています。今では世界中にたくさんの開発者や利用者がいます。あるバージョンの開発だけでも、600 社以上の企業、6000 人以上の技術者が開発に参加しています。

私がこの Linux の開発に本格的に関わったのは 2000 年からです。“基幹システムに適用できる高信頼 Linux の実現”に向けた4社協業に参加し、他社の技術者と一緒に機能を開発、ソースコードを Web で公開、コミュニティで世界中の技術者と議論、という研究生活がスタートしました。コミュニティでは企業の製品戦略に左右されることなく、OS 技術として正しいかが議論されます。まさに、個々人のアイデアや開発技術が試される世界。相手は世界トップクラスの技術者であり、彼らを説得するためには、技術理論が明確でなくてはならず、研究者にとっては苦悩も多いですが面白い世界です。また、コミュニティの暗黙の開発ルールをきちんと理解しないと、説明が空回りしてしまうこともあります。チームで対応したり、コミュニティに相談できる人脈を作ったりなど、毎日が新しい経験の連続でした。英語の壁もあり、最初はコミュニティ活動に不安がありましたが、コミュニティの人たちは驚くくらい良心的な対応で、企業の垣根もなく、今では多くの友人ができました。多様な視点、遊び心と柔軟な発想、新しいものへの飽くなき挑戦、そしていろいろな思惑が交差する中で着実に進化し、社会インフラにも情報家電にも不可欠な OS に成長してきた Linux。このような激動かつ成功事例の仕事に携われたことは、私にとって幸運でした。この面白さもあって、気がつけば 11 年間 Linux 漬けで過ごしてきました。もちろん困難はたくさんありました。例えば、ソースコード公開やコミュニティの議論・開発への参加は、会社の仕事として「さあやろう」と思ってもすぐに始められたわけではありません。前例のない開発モデルや開発コードのため、開発参加やコードの利用に不安の声もあがりました。でも、担当者達の熱意や真摯な取り組み、幹部の英断と支援、そして顧客による Linux の後押しなどがあって、この研究を続けて来られました。また、私が、課長、部長、研究主幹という役職も経験することができたのも、この研究のおかげなのです。得意分野を持つ強みかもしれません。

今では多くの日立製品で Linux が使われ、研究ニーズも増え、社内にも Linux 仲間が増えました。また、コミュニティでも多くの人脈を築くことができ、視野が広がり、人間的にも成長できたと思います。さらに、The Linux Foundation という Linux の普及・開発活動を行う国際 NPO に、テクニカル・アドバイザーとして参加し、国際カンファレンスの企画・運営にも参画しています。今年も6月にパシフィコ横浜で開催しましたが、Linux 創始者である Linus 氏をはじめとする国内外の開発者・利用者が500名近く集まり、オープンに議論し、大盛況でした。

今年は Linux 生誕 20 周年です。まだまだ Linux は成長中であり、私の興味を日々刺激してくれます。今後も長く付き合っていきたいと思っています。ただひとつ残念なのはこの業界に女性が少ないこと。Linux は無料で入手できますし、まずは試してみてください。コミュニティやイベントにも参加して、垣根の無い世界を実感して欲しいです。お待ちしております！

(日立製作所 横浜研究所研究主幹)

決 算 及 び 予 算

平成 22 (2010) 年度決算報告		平成 23 (2011) 年度予算	
収入の部	支出の部	収入の部	支出の部
科目	金額 (円)	科目	金額 (円)
<b>一般会計</b>	<b>一般会計</b>	<b>一般会計</b>	<b>一般会計</b>
繰越金		繰越金	
-----		-----	
年度収入	年度支出	年度収入	年度支出
維持運営費	郵送通信費	維持運営費	郵送通信費
新入会費	印刷費	新入会費	印刷費
バザー	名簿管理費	バザー	名簿管理費
利息	講座補助費	利息	講座補助費
雑収入	パソコン関係費	雑収入	パソコン関係費
-----	-----	-----	-----
小計	総会費	小計	総会費
	会議費		会議費
	運営費		運営費
	バザー		バザー
	雑費		雑費
	予備費		予備費
	-----		-----
	小計		小計
	-----		-----
	①次期繰越金		③次期繰越金
	-----		-----
<b>基金</b>	<b>基金</b>	<b>基金</b>	<b>基金</b>
繰越金		繰越金	
-----		-----	
年度収入	年度支出	年度収入	年度支出
	-----		-----
	②次期繰越金		④次期繰越金
	-----		-----
次期繰越金(①+②)		次期繰越金(③+④)	

【会計・会計監査より】

平成22年度の決算を上記のとおり報告いたします。

会長 多羅尾 千恵  
 会計 茶 圓 幸子  
 松 本 友子

精査の結果、相違ないことを認めます。

平成23年5月10日  
 会計監査 吉益 美恵子  
 大島 治 美

【会計より】

平成23年度の予算が総会にて上記のとおり承認されました。

今年度も、基金を利用して秋に数専会主催の講演会を開催します。その他、基金の有効な利用法がありましたらご提案下さい。常任幹事会にて検討のうえ、総会で用途を決定します。

維持運営費の振り込み用紙が同封されている方はお納め下さい。

尚、払込み手数料は自己負担でお願いします。

【庶務(住所管理担当)より】

転送された手紙を受け取られたら

新住所をご連絡下さい(転送期間は一年です)。改姓、名簿変更などは数専会HP、葉書などで必ずお知らせ下さい。クラス会開催等で名簿が必要な時は、ご連絡下さい。

【HP担当より】

数専会のHPでは、現在の活動状況や連絡事項、数専会に関わる記事や資料をお読みいただくことが出来ます。「クラス会」のページでは、会員皆さまの近況を発信しています。クラス会・同窓会を催される際は、どうぞ写真や簡単な記事をHPにお寄せ下さい。住所変更、出版などの情報もHPからご連絡可能です。

インターネットに接続出来るパソコンなどから「東京女子大学数専会」で検索するか、下記①のURLを入力すると閲覧出来ます。メールでご連絡頂く場合は、下記②のアドレスにお願い致します。

【厚生部より】

平成23年度の求人と実績は数専会ホームページの厚生部求人情報をご利用下さい。成約件数が増えるように工夫をしてみたいと思います。

求人・求職希望者は、ご連絡下さい。鍋田 茂子(S54)  
 ※※※※※※※※※※※※※※※※

【同窓会パソコン講座  
 運営管理委員会より】

Windows7のパソコンでOffice 2010Excel・Wordの入門講座を開設しました。

皆さん奮ってご参加ください。



- ① <http://www.geocities.jp/twcumath/index.html>
- ② [twcumath@yahoo.co.jp](mailto:twcumath@yahoo.co.jp)

平成23年度 常任幹事

2011 年度勉強会案内

ゼミ	テキスト	日時(注)	場所	会費/月	世話人
高村多賀子 ゼミ('51)	常微分方程式 (ポントリャーギン 著 共立出版)	第 3 火曜日 10:20~12:20	72 年館	2000 円	早川希伊子 ( ' 67)
高校数学					
茶園幸子('69)	4STEP 数学Ⅲ+C (数研出版)	第 2,4 木曜日 午前	武蔵野公会堂	2500 円 程度	渡邊信子('75)
横浜教室 吉田萌子('48)	4STEP 数学Ⅲ (数研出版)	第 2,4 木曜日 午前	ミュージア川崎研修室 (JR 川崎駅前)	2500 円 程度	藤田純子('77) 室井和枝('77)
吉祥寺ゼミ	クリアー数学演習 I・II・A・B 受験 編 (数研出版)	隔週金曜日 午前	武蔵野商工会館	1000 円 程度	富樫照子('62) 益田吉子('63)
パソコン					
My パソコン 戸塚三重子('66)	プリント	第 1,3 水曜日 午前	72 年館	3000 円	山田洋子('66)
プラムパソコン 荒木純子('75)	Wordによる図の多い 原稿作成	第 1,3 木曜日 午前	72 年館	4000 円 程度	高林厚子('61)
シニアパソコン 矢矧かつ子('51)	フォトショップを 使った画像編集の 基礎から (ワード、 エクセルを含む)	第 1,3 火曜日 午前	72 年館	13000 円 学期	三崎節子('52)
パズル 荒木純子('75)	プリント	第 2 金曜日 午前	72 年館	2000 円	木谷玲子('62)
多面体 荒木純子('75)	正多面体を解く (一松信著)	第 4 木曜日 午後	72 年館	500 円	菊島永子('85)
自主ゼミ					
九段教室 石田静子('48)	入試問題集 数学 I II AB (文理系) (2010 数研出版)	第 1,3 火曜日 午前	千代田区立 九段生運学習館	2000 円	廣田貞子('49)

(注)午前:10:00~12:00 午後:13:00~15:00

【研究部より】

今年の夏季研修会は、7月2日(土)同窓会館で開催され、猛暑の中、多くの方にお集まりいただきました。今回は、東京女子大数理科学科教授・石井信夫先生に「日本の外来動物問題」と題し、アライグマ・マンダースを例にとり多くの写真・図表を示してわかりやすく解説いただきました。

今後の研修会について、ご意見、ご要望がありましたら、研究部までお知らせください。これからも、たくさんの方に参加いただければと思っています。

今年度の勉強会の活動は、左記の通りです。自主的に勉強会を開いている方、また開きたいとお考えの方は、研究部までお知らせください。また、通信教育のような形で勉強してみたいとお考えの方もご連絡ください。

勉強会は、講師以外に会員が5人集まればどなたでも開催できます。数専会から年2万円の補助金が出ます。なお、会員名簿と決算報告の提出をお願いします。

研究部 連絡先

大井美智子 (S49) ※※※※※  
廣瀬加代子 (S49) ※※※※※

今年大学を卒業して感じること

高橋紀子 (H23)

私が東京女子大学に入学したのは今から4年前の2007年です。入学式の日には緊張と同時にこれからの大学生活に期待をして入学をしたことを今でも覚えています。

そして今年大学を卒業して感じることは、本当に東京女子大学で大学生活を送ることができて幸せだったということです。そしてこの大学に通えたことは私の誇りです。

今回数専会の原稿依頼を受け、学業と大学生活のことを書きたいと思いました。その中で学んだことや得たもの、そして働き始めた今大切だと感じることを伝えたいと思います。

【学業】

私は、新しいことを学ぶことが好きで多くの授業を受けました。数学が好きという気持ちで入学した私にとって難しい授業も多くもあったけれど幅広く学ぶことができてとても楽しかったです。特に印象に残った授業は「プログラミング」です。私はプログラミングを経験したことがなくとても苦労しました。実行エラーを出しては解読してプログラムを修正してまた実行という繰り返しでした。そしてやっと実行できたときは本当に嬉しかったです。そのため、最後まで粘り強く一つの問題に取り組むこと、そして自分自身でしっかりと考えることがとても大事であるということを知りました。

【学生生活】

私は大学が大好きだったため、多くの人にこの大学の素晴らしさを伝えたいと思い、オープンキャンパススタッフをしていました。オープンキャンパスでは、これから入学

しようとしている受験生を対象に大学の魅力を伝えます。

私はこの経験を通して「相手に伝える」難しさを学び、まずは自分自身が知ることが大切だと感じました。そのため相手に何かを伝えるには、高いアンテナをもって情報収集をしなくてはならないということを知りました。

学生生活で得たものを二つあげると、一つ目は大切な友人です。この原稿を書いている前日にも大学の友人と会いお互いの近況を報告しあいました。やはり久しぶりに会うとほっとします。新入社員として悩みは多くあって、様々なことを日々感じています。本当の悩みを打ち明けることができ、そしてお互いを高めあうことができる友人がいてとても幸せだと思います。

二つ目は粘り強く取り組むことです。私は今 研修でプログラミングを勉強しています。プログラミングは大学でも学んでいましたが、新しい言語も学びやはり難しいことが多いです。私はまず自分で考え、どうしても理解できないところは人にきいてしっかり自分で理解するようにしています。何でも考えてみることを身につけることができたのは、やはり大学時代だと思います。

今考えると私は東京女子大学で教育を受け、学問はもちろんのこと社会人として生きていく基礎をしっかりと学ぶことができたと思います。

私が今一番大切だと思うことは、すぐ諦めないこと、何事も一生懸命取り組むことです。この大学時代に学んだことを活かしてこれからの人生を楽しんでまた充実した日々を送りたいです。(日立製作所 アプリケーション開発事業部)

## 東日本大震災に遭遇して

平川弥生(S37)

3月11日午後2時46分。それは日本を大きく変えてしまう出来事となった。  
千年に1度の、いえ未だ経験した事のなかったM9の大地震。

私は前日から上京しており、その時は新宿西口の42Fの建物の中にいた。突然の揺れに美術館の壁に掛かっている絵画は右に左に木の葉のように揺れ、収まらない揺れになす術もなく、友人と肩を寄せ合って収まる時を待った。揺れながら頭の中から今迄築いてきた価値観がガタガタと崩れていくのを実感した。大地震がこんな形で起こった事が信じられず、一刻も早くこの42Fから脱出したい思いでエレベーターの止まった42Fから皆で非常階段を下り、2階の避難場所で目にしたテレビの映像は、この世のものとは思えないものだった。

損保ジャパンビルで一夜をあかし、翌朝 横浜の長女の家で主人と会い、やっと人心地がついた。というのは42Fのビルで火災報知器が作動して火災発生のアナウンスに、この世の終わりを覚悟したのだった。(間もなく誤報が確認されたが)。日をおう毎に事態の深刻さが判明して直ぐに仙台へ帰る道を閉ざされてしまった。

3月下旬に「水道が通水した」との友人からの知らせを受け、3週間振りで帰る事が出来た。期待と不安で帰った我が家は、想像していた程倒れた物は少なくホッとした。家の中も納まった1週間後、また、強い余震が襲った。夜中の突然の停電に朝の明けるのを待って、翌朝、近所の方々と無事を確かめ合った。「前回の地震は昨夜の怖さの比ではない程恐ろしかった！」と話していた。

帰仙した頃には既に電気、水道は使用可能だったが、ガス管の地中での損傷が烈しく、また、各家庭に安全の確認をする必要があった為、震災から1か月以上かかって復旧した。全国からの応援を受け、我が家の周りでは、大阪ガスや新潟ガスの作業服を着た作業員の姿をよく見かけた。不自由な生活をする日々ではあったが、お互いに連帯感が生まれ、不自由の中で工夫して生活する知恵が湧いてきた。戦後の食料のなかった時代には、これ以上

に困難な生活だっただろう！と親の一生懸命に生きていた姿を思い出し、今迄、如何に恵まれた環境の中で文明の恩恵に甘えていた事か！と反省し、毎日、緊張と使命感を持って暮らしていた。

テレビからは沿岸部の津波の被害と原発事故のニュースが報じられ、リアス式海岸のきれいな風景は見ることができない状態で、尊い生命を失くされた方々の報に胸の押しつぶされる思いでいた時、私の教えた生徒が、気仙沼で仕事に津波で亡くなった事を知りお宅へ伺った。既に葬儀は済まされた後だったが、彼の母親は「行方不明の直後はひたすら無事でいてくれる事を祈り、日が経つにつれてせめて遺体が発見されて欲しいと願うようになり、発見されてからは葬儀があげられる事を祈った。やっと葬儀社に依頼は出来たものの、余りの多さに安置所で10日も待たされたが、毎日顔を見に行く事が出来て、無事に葬儀も済ませて安堵した」と話してくれた。40歳間近で社会人として、3人の子供の父親として生きていた彼の遺影を見て、どんなに無念だっただろう！と思うと言葉もなかった。海を愛し、海で育った人達にとっては、どんなに狂った海であろうと、海によって生かされている気持ちが強く、生き残った者達で復興させていく使命感や決意を強く感じる。この気持ちは大人ばかりでなく子供達も抱いていて、時間はかかるだろうが再び豊かな町に甦ると思う。

しかし、人々の善意や協力だけでは不可能で、政治の力でしっかりとした道筋を立てた早い対応を望む。地震発生から横浜に3週間滞在して感じてきた事は、この大きさの地震が都会で起きたらどうなるだろうか？という事だった。私達は目に見えない大きな力に守られて生かされている反面、見えない恐怖とも隣合わせである事を知っておかなくてはならない。

この地震を体験して思う事は、困難

に直面しても、人間は英知を以てそれに対応する力が湧いてくるという事、それには健康な身体と健全な精神力を有している必要がある事。残念な事は、人間が創り出したものによって住み慣れた土地を離れ、仕事を失って避難を余儀なくされている方々を思うと不条理を感じる。震災から3か月が経った。

震災直後のライフラインが全てストップして、走る車もなく、余震に脅えながらスーパーで4時間並んで10分の買い物、その上、電池もガスボンベも入手出来ない生活から、3日、1週間、2週間と経つにつれて物資が回るようになり、私が帰仙した3週間目頃には、震災前に近い生活ができるようになっていた。日本中のあらゆる階層の方々からの応援、支援は有難く、避難している人達にとっては大きな支えとなり、頑張る力を得る事が出来たようだった。

今迄、平和な日常生活の中では感じなかった人との絆をこの体験を通して知った。私達は自然によって癒され恩恵を受けているが、ひとたび自然が牙を剥いた時には、人間の力では太刀打ち出来ない事、自然に対して畏敬の念を持ち続けなければいけない事を教えられた。毎日、新聞の地方版に死亡を確認された方々のお名前が載り、その数は3か月经った現在1万名を越し、まだ増え続けている。

3か月振りで会った沿岸部に住む友人は、「家の中まで津波で水が入り二階に避難して生活していたが、水の引いた地面に水仙の花が咲き、とても慰められ、美智子皇后様にそれを花束にしてお渡しした」と話してくれた。この事を私がテレビのニュースで心温まる思いで見たのは、もう2か月以上も前の事となった。

一瞬にして尊い命を失くされた方々のご冥福を心からお祈りし、一日も早く全ての人達に真の平安な日常が訪れる事を切に願っています。

(6月15日 記)



【編集後記】 この度の東日本大震災、津波、原発事故にあわれた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。このような時だからこそ同窓生同士の絆を深めるための一助となりますよう、また会員の皆様の充実した活動の一端を少しでもご紹介できましたら幸いです。